

【日本の大学】第 42 回——東京都立大学：大都市での社会の理想像を追求

東京都立大学は、日本の首都東京が設置する唯一の総合大学である。2005 年に「首都大学」という名称で、「東京都立大学」「東京都立科学技術大学」「東京都立保健科学大学」「東京都立短期大学」という 4 大学を再編・統合して設置された。2020 年 4 月には、大学の名称を「東京都立大学」に変更している。

東京都や東京の人々とのつながりを大切にしながら、幅広い分野の基礎から応用までの研究を進め、人類の知を発展させることが大学の重要な使命であるとしている。



東京都立大学正門（写真：JST 客観日本）

以下、東京都立大学（Tokyo Metropolitan University）のホームページなどから、大学の沿革と現状をみていこう。

基本理念としては以下を掲げた。「大都市における人間社会の理想像の追求」を使命とし、広い分野の知識と深い専門の学術を教授・研究するとともに、教育研究機関や産業界等との連携を通じ、大都市に立脚した教育研究の成果をあげ、豊かな人間性と独創性を備えた人材

を育成し、人間社会の向上・発展に寄与する——としている。



秋のキャンパス風景、今年は新型コロナワクチンの接種会場もキャンパス内に設けた（写真：JST 客観日本）

旧都立大、1949年に設立

2004年に首都大学として誕生するまでの歴史と、首都大学誕生以降、都立大学に変更されるまでの沿革に分けてみていこう。

首都大学の中心となった旧都立大学は1949年に設立されているが、これは第2次大戦前の1929年頃から順次誕生した高等学校、専門学校を母体としている。即ち、旧制府立高校（1929年設立）、都立工業専門学校（1940年）、都立理工専門学校（1943年）、都立機械工業専門学校（1944年）、都立化学工業専門学校（1942年）、都立女子専門学校（1943年）の6校である。最も古い府立高校は、4年間の尋常科と3年間の高等科を置く7年制で、当初東京府麹町区永田町に置かれたが3年後に東京都目黒区八雲に移転した。

以上の6校を包括した旧都立大学は発足当時、人文学部、理学部、工学部の3学部だっ

た。人文学部は主に旧制府立高校を受け継ぎ、理工系の四つの専門学校は理学部、工学部に引き継がれた。4年後の1953年には人文科学研究科(修士)、社会科学研究科(修士)、理学研究科(修士)、工学研究科(修士)の大学院前期課程が加わり、更に1955年には各大学院研究科に博士課程を設けている。

旧都立大学は、1957年に人文学部から法経学部が独立し、66年には法経学部が法学部と経済学部に分かれて5学部体制になった。組織拡充に伴って八雲キャンパスと理学部、工学部のあった深沢キャンパスが手狭となったため、1991年には、校舎を東京都八王子市南大沢へと移転した。その後も施設を大幅に拡充し、現在の大学の本部もここにある。



秋のキャンパス風景、体育館の屋上にて（写真：JST 客観日本）

4 大学集め、「首都大学」誕生

都立科学技術大学は、1954年に設立された都立工業短期大学から始まり、都立航空工業短期大学と合体する形で、1972年に都立工科短期大学となり、それが、1986年に科学技術大学となった。

保健科学大学は1986年にできた都立医療技術短期大学が、都立保健医療大学保健科学部や、専攻科、保健科学研究科(修士、博士課程)へと引き継がれた。

都立短期大学は1954年にできた都立商科短期大学や都立立川短期大学などが再編・統合されるなどで1996年にできた5学科からなる短期大学だった。

以上の4大学を統合した首都大学東京は2005年4月1日に発足した。既存の4大学は、首都大学が設置する大学として併存していたが、在学生がいなくなった時点で閉校となった。

首都大学は都市教養学部、都市環境学部、システムデザイン学部、健康福祉学部の4学部、大学院は人文科学研究科、社会科学研究科、理学研究科、工学研究科、都市科学研究科、保健科学研究科からなっていた。このうち都市教養学部は、2018年に人文社会学部、法学部、経済経営学部、理学部の4学部と一部が都市環境学部とシステムデザイン学部へと引き継がれた。2012年には、助産学専攻科が加わっている。大学院の方は社会科学研究科が1918年法学に政治学研究科と経営学研究科に分かれるなど、名称や内容の変更が行われた。



大学祭～荒川キャンパス（健康福祉部）

2020年4月には、首都大学東京の名称への認知度が上がらないことなどを踏まえて、東京都立大学へと名前を変えた。首都大学ができる前の旧都立大学とは、設備や人員の多くが

引き継がれているものの、組織としては直接的な連続性はなく、大学側は、「旧都立大学の復活とか元に戻るといったことではない」としている。

大学が取り組む重点課題としては、「物質の循環や都市基盤配置の視点から都市環境の向上に貢献すること」「ダイナミックな産業構造を持つ、都市社会を支える高度の知的社会を構築すること」「都市社会に生きる人々の健康と長寿を支えるシステムを構築して活力ある長寿社会を実現すること」の3点を挙げている。

学部や大学院の組織は首都大学東京のままである。学部は人文社会、法、経済経営、理、都市環境、システムデザイン、健康福祉の7学部と助産学専攻科、大学院は人文科学、法学政治学、経営学、理学、システムデザイン、都市環境科学、人間健康科学の7研究院である。



図書館本館（写真：JST 客観日本）

人文社会学部は、日々変化を遂げている社会の一員として、どのように現実社会と向き合っていくべきか、そうした問いに対して答えられるような知識と思考力を養うことを目的としている。学部では、人間の心理や教育、言語、文学、思想、歴史、そして社会や文化などの広い分野で様々な研究を行っており、人間社会学科と人文学科の2学科がある。1年次

には全員が基礎教養科目を履修。その後、各自が先行する分野を決め、配属は2年次から。専門分野を修得し、卒業論文作成に向けて進む。専門分野に進んだ後は、少人数の授業となる、興味のある授業を履修し、知識を深める。

法学部には法律学コースと政治学コースがあり、いずれも徹底した少人数制を実践している。経済経営学部は経済学と経営学の2コースがあり、経済学と経営学の体系的なカリキュラムの提供を通して、教養教育と専門性の高い先進教育を展開している。

理学部では、自然界の謎や疑問の解決に一步でも近づけるよう、本当の実力をつけるための教育を実践する。数理科学科、物理学科、化学科、生命科学科に分かれる。



人文社会学部前

多角的に「都市」を研究

都市環境学部は、都市環境を構成する自然、人間、社会、物質、エネルギー、情報、構造物・人工物、公共政策などをキーワードにして、進展する都市機能と環境問題の関連性、大都市におけるエネルギーの高度利用と安定供給、インフラの老朽化とその更新、大規模な災害への対応、都市・地域経済の活性化、少子高齢化への対応、多様な人々との共存、そして、行財政運営の在り方など、様々な課題を掘り下げて学び、研究する。

これからの都市開発や街づくりは将来の世代につけを回すことのない持続可能な開発の理念に則る必要がある。そうした理念を実現するために、自然環境の力や実態を明らかにし、環境負荷を考慮したエネルギーや素材開発の取り組みも欠かせない。そうした技術や方法論の創造に寄与できる知識と技能の育成に努めていく。地理環境学科、都市基盤環境学科、建築学科、環境応用化学科、観光科学科、都市政策科学科の6学科がある。

システムデザイン学部は、スマートフォンからロボット、惑星探査機まで、かつてはSFの世界にしかなかった様々な技術やシステムに関して、一つの要素技術だけでなく、他分野の複数の技術が連携・融合することにより実現されたことを踏まえて、具体的に教育研究を進めるユニークで最先端の学部である。プログラミングと数理・論理的思考により社会的価値を創出しようとする「情報科学科」や、「電子情報システム工学科」、「機械システム工学科」、「航空宇宙システム工学科」、「インダストリアルアート学科」の5学科から成っている。

健康福祉学部は、保健医療に関する職業人の育成を目指す。看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線学科がある。



青鳩祭 ～ 荒川キャンパス大学祭 ～(2012年)

本部のある南大沢キャンパスでは、1年次はすべての学部の学生が1年間、基礎科目を学ぶほか、人文社会、法、経済経営、理、都市環境の5学部の学生が学ぶ。ほかに、次世代エネルギーやゲノム解析など高度な研究に携わっている研究センターが入るプロジェクト研

究棟や、植物の標本が集まっている牧野標本館、留学生の交流の場となっている国際交流会館などがある。日野キャンパスにはシステムデザイン学部が、荒川キャンパスには健康福祉学部が入っている。

2009年には、国際センターを設立した。現在、海外約200の大学と協定を結び国際化を進めている。



国際交流センター前（写真：JST 客観日本）

海外からの留学生に関しては、国際課が全面的にサポートしている。留学方法としては、私費留学、国費留学、交換留学などがある。私費留学は一般選抜以外に留学生を対象とした選抜方式があり、合格した後のサポート（ビザ取得など）、宿舍の手配、授業料の減免制度、奨学金制度などを用意している。

国費留学（文部科学省奨学金）は大使館推薦と大学推薦があるが、大学院生レベルが対象で、採用者数は非常に少ない。また、東京都が世界各都市との発展に向け、相互交流や協力を担う人材の育成に資するとの目的で2015年に設けた基金で受け入れている学生もいる。

海外の大学や教育機関と学生交換協定を結んでおり、この制度を利用して都立大学で学

ぶ学生を受け入れている。外国人留学生は 2020 年 5 月現在、学部生 111 名、大学院生 439 名、その他が 88 名で、計 638 名となっている。このうち、中国からが私費留学 429 名、都市 15 名の計 444 名と最も多くなっている。

学生数は、学部が 6538 名(うち女性 2791 名)、専攻科 10 名(女性 10 名)、大学院 2246 名(女性 652 名)の計 9059(女性 3520 名)。教員数は 647 名(うち女性 133 名)。(いずれも 2021 年 5 月現在)



みやこ祭 ～ 南大沢キャンパス大学祭 ～

現在の学長は、大橋隆哉氏である。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。東京都立大学には、1992 年理学部助教授、98 年教授、2005 年から首都大学理工学研究科教授となり、2016 年学長補佐、17 年副学長、21 年 4 月から現職。専門は宇宙物理学である。

日文：滝川 進

写真：署名以外は東京都立大学の HP から